

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
87	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
The mediating effect of childhood abuse in sexual orientation disparities in tobacco and alcohol use during adolescence: results from the Nurses' Health Study II. 児童時の被虐待経験、および性的偏向が思春期のタバコ・アルコール使用に及ぼす影響: Nurses' Health Study II	
<b>執筆者</b>	
Jun HJ, Austin SB, Wylie SA, Corliss HL, Jackson B, Spiegelman D, Pazaris MJ, Wright RJ.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Cancer Causes Control. 2010 Nov;21(11):1817-28.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、バイセクシャル、児童虐待、レズビアン、性的嗜好、喫煙	
<b>要 旨</b>	
<b>目的:</b> 児童時の被虐待経験、および性的偏向が思春期のタバコ・アルコール使用に及ぼす影響について検討すること。	
<b>方法:</b> 現在進行中の Nurses' Health Study II のコホートでは 62,000 人を超える女性から、性的指向・11 歳以降の被虐待歴、および思春期のタバコ・アルコール使用に関する情報を収集している。本データを用いて分析を行った。交絡因子を調整した重回帰分析を用いて、性的指向と思春期のタバコ・飲酒との関連に被虐待歴が及ぼす効果を推定した。	
<b>結果:</b> レズビアン/バイセクシュアル性向と被虐待歴は、思春期におけるタバコ・アルコール使用のリスクと正に関連していた。児童期の被虐待に起因する思春期の推定過剰タバコ・アルコール使用割合は、異性愛者女性を基準とした場合、レズビアンでは、7 から 18 パーセント、バイセクシュアル女性においては 6 から 13%であった。	
<b>結論:</b> 異性愛者の女性に比し、レズビアンやバイセクシュアルの女性における児童期の被虐待経験は、思春期におけるタバコ・アルコール使用のリスク増大と部分的に関連していた。児童虐待を予防するための介入により、いくつかの女性がんの主原因である性的偏向を減少させ得る可能性がある。	